

R2 中学校技術・家庭科(技術分野) 年間指導計画

【 岐阜県 】

目指す子どもの姿	<b>未来を切り拓く確かな実践力を身に付けている</b>
指導の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>○技術分野の学習内容を系統的に学ぶことで、確かな学力を身に付けることができるよう指導する。</li> <li>○学習した知識と技術を活用して、未来を切り拓く確かな実践力を培うことができるよう指導する。</li> </ul>

週(時)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第1学年	題材名	ガイダンス	A 材料と加工の技術 ものづくりを通して、安全で便利な生活を実現させよう																	D1 情報の技術 校内チャットシステムを開発しよう!																
	学習内容 (学習指導要領)	①技術分野の学習の見直し	①身の回りの製品調べ(1)イ ②材料の性質、加工法(1)ア ③問題発見と課題設定(2)イ ④構想の具体化(2)イ ⑤⑥設計・製図12(2)ア ⑦⑧材料取り12(2)ア ⑨切断1(1)ア ⑩切断2(2)ア									⑪部品加工と検査・修正(2)イ ⑫仮組み立てと接合(1)ア ⑬組み立て(2)ア ⑭表面の処理(2)ア ⑮完成・作品交流(2)イ ⑯評価活用(3)ア ⑰社会の発展と技術(3)イ								①情報提供・情報処理システム調べ(1)イ ②コンピュータの仕組み(1)ア ③情報のデジタル化(1)ア ④様々な情報のデジタル化(1)イ ⑤情報通信ネットワークの仕組み(1)ア ⑥情報モラル(1)イ ⑦情報セキュリティ(1)ア ⑧プログラムの役割(2)ア ⑨ネットワークシステムの構想(2)イ					⑩順次・反復のプログラム(2)ア ⑪分岐のプログラム(2)ア ⑫ネットワークを利用したプログラム(2)ア ⑬⑭プログラムの改善と修正12(2)イ ⑮生活に生きるプログラムの制作(4)ア ⑯チャットシステムの評価・活用(2)イ ⑰制作過程の評価・改善(4)イ											
	授業時数	1	17																	17																
第2学年	題材名	ガイダンス	B 生物育成に関する技術 安全で環境にやさしい野菜作りに挑戦しよう																	C エネルギー変換の技術 エネルギー変換の技術で、持続可能な生活を実現しよう																
	学習内容 (学習指導要領)	①技術分野の学習の見直し	①生物育成の技術の目的(1)イ ②生物を育てる技術(2)イ ③植物を育てる技術(1)ア ④動物を育てる技術(1)ア ⑤水産生物を育てる技術(1)ア ⑥生物の育成計画(2)イ ⑦種まきと生育環境(1)ア ⑧土の準備(2)イ								⑨管理作業(1)ア ⑩定植(2)ア ⑪病害虫の防除(2)イ ⑫追肥(2)ア ⑬露天栽培と室内栽培の比較・検討(2)イ ⑭収穫・評価(2)イ ⑮生物育成の技術との関わり(3)イ ⑯生物育成の技術の可能性と役割(3)ア ⑰生物育成の新しい技術の開発(3)イ									①エネルギー変換技術について探る(1)イ ②課題を設定する(2)イ ③発電の仕組みと特徴(1)ア ④定格表示とコードの許容電流(1)ア ⑤漏電・感電・過熱・短絡(1)ア ⑥回転運動を伝える仕組み(1)ア ⑦機械が動く仕組み(1)ア ⑧保守点検(2)ア					⑨電気回路の構想・設計(1)ア ⑩製作品の設計・要素の検討(2)イ ⑪⑫⑬組み立て123(2)ア ⑭点灯の仕組み(1)ア ⑮さまざまな電気エネルギー製品の仕組み(3)ア ⑯組み立て・調整などに係る評価(2)イ ⑰これからのエネルギー変換の技術(3)イ											
	授業時数	1	17																	17																
第3学年	題材名	D2 情報の技術 計測・制御システムで、持続可能なスマート農業を実現させよう																																		
	学習内容 (学習指導要領)	①計測・制御システムの普及の背景(3)イ ②計測・制御の仕組み(3)ア ③micro:bitの基本操作(データ転送)(3)ア ④micro:bitの基本操作(センサ)(3)ア ⑤micro:bitの基本操作(アクチュエータ)(3)ア ⑥micro:bitの基本操作(拡張基板)(3)ア ⑦栽培管理システムの構想(3)イ ⑧⑨⑩システムを構築するプログラムの制作(3)ア									⑪プログラムの改善と修正(3)イ ⑫⑬システムを構築するプログラムの制作(3)ア ⑭計測・制御システムの評価(4)イ ⑮計測・制御システムの活用(4)イ ⑯これからの社会と情報の技術(4)ア ⑰技術分野の学びを将来に生かす(4)イ																									
	授業時数	17																																		
週(時)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17																		

指導時数	ガイダンス	A	B	C	D	合計
	2	17	17	17	34	87